

湖南省藍山県ミエン・ヤオ族調査報告

廣田 律子

ヤオ族は儀礼の実践において漢字文書（経典）を使用するが、種々な儀礼で読誦される定型の経文は、七言上下句が対をなし四句をまとまりとし構成され、日常使用されるミエン語や漢語とは異なる音訓が付され、経文によって異なるリズムと旋律をそなえた曲節を付けて発声される。定型経文の内容は、ミエン・ヤオ族のアイデンティティーの根幹をなす神話や歴史叙事、儀礼の執行内容や祭司として守るべき教訓、口承の記録等多岐にわたるが、単なる道教からの借用ではないヤオ族独自の信仰知識や伝統的概念が凝縮され、対句や反復や多義の比喻表現が用いられる。儀礼の実践では経文を文面通り読誦するだけでなく、口承と書承部分を混在させたり、掛け合い問答形式で進める等極めて難解な法則が存在する。男性祭司と女性歌手とは同時進行でも経文や歌唱法が異なる。今まで充分になされてこなかったこの定型経文の儀礼における読誦歌唱システムの解析を進める必要を感じている。

今回2014年8月に実施した調査では言語学の専門家による言語に関する基礎的調査を行なったほか、漢字文書のうち儀礼執行に欠かせない代表的な『大歌書』の読誦言語を国際音声字母を用いて記録化を図るために、その前提作業として『大歌書』が読誦される還家愿儀礼の盤王愿部分の詳細な儀礼執行程序の作成を進めた。その報告を行なう。

1. 調査地域と調査儀礼

ヤオ族は中国の湖南省・広東省・広西チワン族自治区・貴州省・雲南省・ベトナム・タイ・ラオスの山地に分布し、中国では言語や文化の上で異なる集団がヤオ族とまとめられて称され、約260万人の人口を有する。本報告は湖南省の西南に位置し広東省に隣接する藍山県に居住する過山系ヤオ（ミエン）族を調査対象としている。過山系のヤオ族は焼畑耕作を主な生業とし、犬祖神話と渡海神話を伝承し、男性は祭司としての資格を得る通過儀礼を行なう点等に特徴がある。藍山県は約181平方キロメートルの面積で、35万人の人口（2005年現在）のうち漢族が大半を占め、ヤオ族は約2パーセントにすぎない。藍山県には15郷あり、そのうち6郷にヤオ族が衆居する。

これまで藍山県の漚源郷湘藍村の祭司が行なう儀礼ですでに調査を行なったのは、祭壇に神像画の描かれた軸を掛けて行なう還家愿儀礼（祭司になるための儀礼および願ほどの儀礼）、度戒儀礼（祭司の最高位を得るための儀礼）、道場儀礼（葬礼）のほか、治病のための儀礼、符を授ける儀礼、神像画に魂入れを行なう儀礼、年中行事の春節および除災招福を目的とする送船儀礼等がある。そのほか建築の日取り等吉日を選ぶ場面にも出会った。時期にもよるが、祭司の家で聞き書き調査を行なっていると日に何回も儀礼を依頼する電話がかかってくる状況である〔ヤオ族文化研究所 2011：80-91〕。

ヤオ族の儀礼は、その規模の大小にもよるがテキスト（経典）の読誦と口頭による唱えごと、発行される文書〔丸山 2010、2011〕、マジカルなステップ（罡歩^{こうほ}）、マジカルな手の表現（手訣）、符の作成、舞踏等を重要な構成要素として成立している。

儀礼の進行に欠くことのできないテキストは、漢字で表記され、通過儀礼に関する写本、儀礼の式次第を記した写本、儀礼に用いる文書類の凡例を収めた写本、神々を崇拝する神歌に関する写本、神々の呪文に関する写本、符・罡歩・手訣を解説する写本、吉日を選ぶ暦、祭司の受礼の状況を記したもの等が含まれ、内容からは符書・賞光書・伝度書・請聖書・意者書・歌堂書・超度書・暦書等のジャンルに分類できる〔神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科 2011：47-56〕。

2. 還家愿儀礼

今回儀礼の実践と使用文献と歌謡の内容を接合させた詳細な程序の作製のための聞き取りを実施した還家愿儀礼の全体について概説する。還家愿儀礼は、藍山県所城郷幼江村の盤家において2011年11月16日～11月21日（旧暦10月21日～26日）実施された。盤家の跡継ぎである盤榮富とその妹婿の盤明古、

そして盤栄富の父の妹の夫である盤林古（故人）とその子で栄富にとってはいとこである盤継生・盤認仔・盤新富の3兄弟、計6名が受礼者となり祭司となる法名を得、家を継ぎ先祖の祀りを行ない、自分も家先単に加えられ祀られる資格を得るために行なわれる掛三灯儀礼が中心となる。さらに盤家では1930年代に流行病によって7人が亡くなる不幸があり、その時に願を掛けたがずっと願ほどの儀礼を実施できずにおり、2011年にも願を掛け、願ほどの儀礼を行なうことを約束したので、願掛けが成就したことに対する願ほどの儀礼、さらなる願掛けの儀礼、さらに盤王を祀る儀礼が行なわれる。3人の祭司が招兵師・還愿師・賞兵師・掛灯師と称し、その弟子たちと共に役割を分担し、祭祀を行なう。そのほかに供物を準備し、儀礼の段取りを取り仕切る主厨官、文書作成を担当する書表師、歌を担当する歌娘、若い男女3名ずつの三姓単郎と三姓青衣女人、はやし方の笛吹師・鑼鼓師等の役割がある〔神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科 2012：23-116〕。

祭場は盤栄富宅の庁堂において行なわれ、入口入って正面右側に盤栄富の先祖を祀る常設の祭壇（家先壇）があり、中央に祭壇がしつらえられ、壁には元始天尊の左右に道德天尊、靈宝天尊を配し、この三清を中央とし、左に聖主・太歳・十殿・李天師・地府・大海番・海番張趙二郎・把壇師、右に玉皇・総壇・張天師・三將軍・天府・監齋大王の神像の描かれた17種22軸が掛けられる。祭儀の進行に従って、先祖を祀る壇には紅紙の切り紙が掲げられたり、七星姐妹を祀る祭壇や開天門の儀礼を行なうための場等が加えられる。祭儀の後半の盤王を祀る儀礼の祭壇は前半と一変し、神像画の軸は外され、正面に盤王を象徴する紅紙を切り抜いた紅羅緞が貼られ、丸ごと豚1頭が供物として並べられ、その上にちまきが置かれ、切り紙の花旗が挿される。

3. 還家愿儀礼の程序

神像画の軸を掛けて行なわれる儀礼の度戒儀礼・還家愿儀礼・葬送儀礼は、規模の大小はあるものの儀礼の骨格をなす基本構造は一致し、祭司が祭場の準備を整え、開始の酒を飲み、祭司の資格を告げ、神を招き、祭司の師匠の助けを求め、神に祭りの目的等を伝え、神を喜ばせ、叙任の儀礼を行ない、神に紙銭等を献上し、願掛けをし、願ほどきをし、神を送り、師匠に感謝し、ねぎらいの酒を飲み終了する構成を取る。それぞれの儀礼の目的に合わせ、この骨格に特徴ある肉付けがなされる〔廣田 2013b：1-25〕。

中規模の儀礼に位置付けられる還家愿儀礼だが、全体の儀礼執行の程序を表にして示す。

還家愿儀礼程序表

日付	大儀礼名	内容
11/16	落兵落将	祭司各自が連れて来た陰界の兵を施主の家先壇に入れる。
11/16	脱鞋酒	祭司と施主と厨官が酒を飲む。
11/16	做紙馬	神に献上する紙銭作り。
11/16	石鑿銭酒（做〔紙〕酒）	さらに手伝いの人も交え酒を飲む。
11/16	写愿簿	家先単作り。
11/16	紙馬進堂	祭司が紙銭を家先壇に置く。
11/16	落脚酒	祭司および受礼者、厨官、歌娘等が酒を飲み、祭司は自身の資格、儀礼の趣旨説明を行なう。
11/16	掛聖	神像画の軸を掛ける。
11/16	冷排盞	厨官が供物盆を出し礼拝。
11/16	点香	厨官が線香灯明を家先壇に供える。
11/16	羅鼓開始	はやし方の鳴り物が始まる。
11/16	恭賀主家	祭司から施主への祝金が準備される。
11/16	昇香	厨官が祭壇を整え、祭司が線香を壇に供える。

11/16	安祖先（安家先）	分家に香炉を分け祖先を迎える。
11/16	接外祖	妻方の祖先を迎える。
11/16	写家先対聯	書表師が対聯を準備する。
11/16	請聖	祭壇に神々を招聘し、儀礼の目的、経過、式次第を説明。祭場を清める。
11/17	做紙馬	紙銭作り。
11/17	添香	厨官が線香と灯明を供える。
11/17	準備五穀幡	五穀幡を準備。
11/17	入席	はやし方が演奏。
11/17	請聖	神々を祭壇に招聘し、儀礼の経過、式次第を説明。
11/17	封斎	斎戒の開始。
11/17	掛家灯	祭司となる通過儀礼。
11/17	入席	はやし方が演奏。
11/17	做紙馬	紙銭作り。
11/17	開壇還愿	神々を招聘しあらためて願が伝えられる。壊れた盆を修復し再び陰兵の受け入れができるようにする。願ほどきが行なわれる。
11/18	招兵愿	神兵を招き、五穀豊穡を祈願して行なわれる。
11/18	入席	はやし方が演奏。
11/18	招兵愿	天の門を開き神兵を招き、五穀豊穡を祈願して行なわれる。
11/18	還招兵愿	兵を楽しませるために行なわれる。願ほどきが行なわれる。
11/18	大運銭	献上される銭が届けられる。
11/18	送孤神	孤神を送る。
11/18	鑑牲	豚を犠牲とする。
11/18	謝師	師匠に感謝する。
11/18	鑑香	線香を供える。
11/18	収聖	神像画を片付ける。
11/19	盤王愿	盤王に感謝し行なわれる。
11/20	盤王愿	盤王に感謝し行なわれる。願ほどきが行なわれる。
11/20	拝師	師匠に感謝する。
11/20	散袱酒	祭司、歌娘、厨官等がテーブルに着き、それに対し受礼者が礼拝。
11/20	散袱拝師	祭司に対して受礼者が礼拝。
11/20	唱賀歌	歌娘が歌い言祝ぐ。
11/21	分紅	厨官が供物の肉を分配。
11/21	拆兵	祭司は家先壇から自身の兵を取り戻し、帰り支度をする。
11/21	奉倉庫	倉庫を作る。
11/21	上馬酒	最後の酒盛り。

4. 儀礼盤王愿の実践

今回の調査では還家愿儀礼の後半において『大歌書』の読誦歌唱が行なわれる大儀礼名「盤王愿」部分を取り上げ、儀礼の実践と読誦される文献の内容について詳しい聞き取りを行なった。

2011年11月19日から20日に実施された大儀礼名「盤王愿」部分の儀礼执行程序のうち重要な箇所を取り上げ調査によって明らかになったことを以下に示す。

1、（19日7時45分頃～）庁堂正面に祭壇をしつらえる。

祭壇の様子は、紅紙の切り紙（上から柱歯・石榴花・大紅花・荷花・盤王印・天狗・香炉）、その下に黄紙の切り紙（金魚）が貼り付けられた紅羅緞が正面に飾られる。その両脇に紙銭がつるされている。

供物は、豚の頭部に脂の膜がかぶせられ、その上に肉片・盤王の塩信⁽¹⁾・碗の灯明・箸の束が置かれる。頭部の両脇には内臓、その脇に胴・足が置かれる。右に2足、左に1足、胴の上はちまきに覆われ、ちまきには色とりどりの切り紙の旗が挿してある。さらに正面には背骨と1足がつるされている。血の入った桶は右に置かれる。

豚の頭部前には、左右に3つずつの碗、中央に香炉碗、左右に米の入った碗・水杯・塩の入った杯が並べられる。

2、(8時20分頃)主厨官が祖先壇に線香をとます。

3、(8時20分頃～)「剪花酒」を行なう。庁堂に祭司とその弟子、歌娘、主厨官がテーブルを囲み着席し、祭司が盤王愿を行なう施主盤家の願掛けの経緯、願ほどきの実施内容等を説明する内容の「意者」を暗唱する。招聘する神名および祖先の名を唱える⁽²⁾。神々に献酒後皆で酒を飲む。

4、(10時頃～)祭司は祭壇前で「意者」を暗唱する。

5、(10時10分頃～)祭司は祭壇前で「請盤王」を行なう。この時招聘する神名と神についての叙事文を暗唱する。

6、(10時30分頃～)祭司は祭壇前で献酒および献紙銭し、足りたかどうかト具で確かめる。

7、(11時30分頃～)祭司は「意者」を暗唱し、神が受け取ったかどうかト具で占う。

8、(14時10分頃～)祭司は神名を暗唱。神々を招聘するため紙銭三十扛を献じる。

9、(14時15分頃～)「流楽」が開始される。祭司はト具で占った後、經典の「点男点女過山根」(文献Z-15⁽³⁾) 箇所が読誦される。

10、(14時25分頃～)「陰声保、陽声気」とされ、祭司は神の声がわたされ歌詞が引き出されたかト具で占う。この時男女が歌う歌の題が表明される(文献Z-15を読誦)。米が撒かれ、神声がわたされたことを表わし、歌が開始される。歌女は文献Z-29を読誦歌唱する。三姓青衣の女性は祭壇前に並ぶ。

11、(15時15分頃～)祭司により上光儀礼が進められる(文献Z-32aを読誦)。

12、(15時50分頃～)祭司は文献Z-26を読誦。

13、(16時～)祭司は戸口のところで内外に別れて問答を行ない、内の者は紙銭の金を払い、外からの来訪者は贈り物を表わす楽器(長鼓・笛・沙板・角笛・鈴)を送る。

問答の内容は、

どこから来た	鉄の産地の塘村から来た
何しに来た	工具(刀、斧刀等)を作りに来た
いくらかかる	7千8万
8万7千だろ	
何しに来た	お祝いに
何をもって来たのか	牛、鴨、鵝をもって来た

である。

状況としては、歌堂が催されると聞きつけ、鉄の産地の塘村から神々が訪れるのに橋を架けるために必要な鉄製工具を作りさらに供物となる品々を携え祝いにやってきた来訪者と歌堂を催す家の者との問答である。7千8万と言い間違えると8万7千と直し、そこで笑いを誘う。

14、(16時5分頃～)弟子たちは祭壇前で鍛冶屋が橋を架けるための工具を作る様子を演じる。木を切り製材し橋を作る様子を演じる。

15、(16時15分頃～)祭司は手訣で陰兵を派遣し三廟に至る橋を架けることを表わす。ト具で占い、橋が架かったか判断する。

16、(16時20分頃)玉簡は橋を表わし、弟子は橋を平らにする等演じる。文献Z-26を読誦。

17、(17時10分頃～)祭司は神々に献酒を行ない、文献Z-26・『善果書〇乙本』(文献Z-16)を読誦。

18、(17時55分頃～) 祭司は戸口で内(女性を演じる)と外(男性を演じる)で文献Z-15および文献Z-26を使用し問答を行なう。

- 1 女問：お尋ねします。どの州のどの県の方ですか？ 何しにいらしたのですか？ 門前で鼓を打ち、歌堂を歌うなんて。
- 1 男答：お尋ねにならないでください。連州から来たのです。連州から山を半分来たところで夜になりました。あなたは私を気の毒だとは思いませんか？
- 2 女問：お尋ねします。どの道から来たのですか？ どうしてこんなに遅くなったのですか？
- 2 男答：答えましょう。遠いからです。連州から山を半分来たところで日が沈みました。まだいい方です。その日のうちに着いたのですから。
- 3 女問：お尋ねします。どちらからいらしたのですか？ 明るいうちに何で着かなかったのですか？ 何でこんなに遅くなったのですか？
- 3 男答：お答えします。小さい声で劉三娘に答えます。お聞きしたところご主人は還家願をなさるそうで私は参加しに、歌いに来ました。
- 4 女問：お尋ねします。遠くからいらした厚意の方でしょう。還家願があると知っているようですが、誰が歌堂があるといったのですか？
- 4 男答：3日前にあることを知っていました。主人は厚意があり私も厚意があります。真心を込めてこのためだけに参加したいと来しました。自分のことを怒らないで遠くて遅く着いたことを。
- 5 女問：疑っていました。理由もなくあなたを責めてつらい思いをさせてしまいました。あなたが私のところに来てくれ申し訳ありません。ハンサムボーイに夜道を来てもらってもともと遅かったのが分かりました。
- 5 男答：自分を恨まないでください。道が遠かったのだから。連州から山を半分来たところで夜になりました。あなたは私を気の毒だとは思いませんか。
- 6 女問：恨みはしません。ハンサムボーイさん遠路はるばる来てくれて怒らないわ。疑っていたけれどご苦労さま。
- 6 男答：先に着いている3人の女性は大王の娘です。盤王のために来たのです。遠くから来て皆集まっていた女性たちは歓迎して待っていました。
- 7 女問：遠くからいらしたのに、あなたを責めてつらい思いをさせてしまいました。連州の山を越える時奇怪なものを見ませんでしたか？ もし怪しいものに会ったら、隠さないでください。
- 7 男答：連州の山で小怪を見ました。猪がついて来ました。家で還良願を盛大にやっています。金銀財帛がくっついて来て、家に入って来ました。
- 8 女問：お尋ねします。行平太郎にお尋ねします。行平の山を越える時、何か奇怪なものを見ませんでしたか？ 隠し事をしないでください。
- 8 男答：行平の山を越える時怪を見ました。猪が笑ったのを見ました。家で還良願を盛大にやっています。金銀財帛がくっついて来て家に入って来ました。
- 9 女問：お尋ねします。伏霊太郎にお尋ねします。伏霊の山で怪を見ませんでしたか？ どうぞどんな怪に会ったか、ちゃんと話してください。
- 9 男答：伏霊の山で小怪を見ました。亀が道をふさぎ寝ていました。家で還良願を盛大にやっています。金銀財帛がくっついて家に入って来ました。
- 10 女問：お尋ねします。伏江のお二人にお尋ねします。伏江の山で怪を見ませんでしたか？ どうぞどんな怪にあったか、ちゃんと話してください。
- 10 男答：伏江の山で怪を見ました。狸が飛んで天を横切ったのを見ました。家で還良願を盛大にやっています。五穀豊穡が末永く続くように。
- 11 女問：頭のよい連州の人たち。歌いながらやって来ました。種々な怪についてみんな話してくれました。とても頭のよい人たち。
- 11 男答：門の前に一晩立っています。ずっと門を開けてくれませんでした。お手数をお掛けしますが、

迎えてください。ご主人を言祝ぎにすべてそろいました。

12女問：お手数をお掛けします。あなたは心掛けがよく、ありがたいです。誠心誠意門を開けてお入りいただきます。あなたを入れ、一緒に神に感謝します。

12男答：湖南大門が開かれます。大王を祀る儀礼の場ができています。紅羅帳も貼られ、大王の娘も集まっています。

13女問：女性の左手で男性の鼓を招き、女性の右手で男性の鈴を招きます。連州から貴人がやって来ました。若い男性の両手をもって大庁に招きます。

女：感謝します男性の情は天のように大きい。感謝します男性の情は沙糖のように甘い。門を開け男性を入れます。本当に心があり厚情の人です。

女：左手で男性のもって来た笛を受け取り、右手で男性のもって来たドラを受け取ります。伏霊、伏江からやって来た貴人は門の外に到着し両手を取って部屋に招きます。

女：ありがたい。とてもよい心の方でありがたい。家では還良願を行ない、みんな誠をもって神に感謝します。

女：門前の石垣の花が開きうれしい。主人は心を込めて神を招きます。主人は真心をもって神を招き、男性は今夜歌堂で歌います。

状況としては、主家が歌堂があると聞き、連州、行平、伏霊、伏江から歌を歌いに来訪した男性と主家の女性との問答である。

19、(18時20分頃～) 外から人を室内に招き入れ酒を勧める。

20、(18時30分頃～) 主厨官等が「倣鼓」「置鼓」「試鼓」を演じ、祭司は『善果書〇乙本』(文献Z-16)を読誦する。

「試鼓」の時祭司は問答を行なう。木を切り長鼓を作製する内容

どこへ行った？	山へ
何をしに？	木を切ってきた
何にする？	長鼓を作る

の問答を行なう。主厨官は長鼓をもち舞う。舞の動作は飄洋過海の神話や祭祀の内容、焼畑、儀礼、家作り等を表現する。

その後祭司が「聴鼓」「唱歌堂」を『善果書〇乙本』(文献Z-16)を読誦し表現する。

21、(18時40分頃～) 祭司、歌女は戸外に出てそれぞれ『善果書〇乙本』(文献Z-16)・Z-29を読誦する。三姓青衣の女性3名三姓単郎の男性3名は対面して並ぶが、その間を弟子は8字に回り串歌堂を意味する。

22、(18時50分頃～) 祭司は祭壇正面で『善果書〇乙本』(文献Z-16)を読誦し、読誦に神名があがるとに、弟子は箸で祭壇上からト具を床に落とし、神に対して供物の数を数え確認したか満足したかを占う。

23、(19時25分頃) 祭司は脱童の儀礼を行ない、『善果書〇乙本』(文献Z-16)を読誦。

24、(19時35分頃) 祭司は師父に感謝する。

25、(19時45分頃) 祭司は神々を招聘し、約束した紙銭を献納する。供物(おかず・酒等7組)を献納する。数を数え確認したか、食べたかト具で占う。

26、(19時50分頃) 祭司は請盤王の声音で歌唱し、神の声(劉三妹娘の声)と歌詞を引き出す。紙銭を献ずる。

27、(21時30分頃)「唱盤王大歌」が開始され、祭司は祭壇前で「意者」を暗唱したのち『大歌書一本上冊』⁽⁵⁾(文献Z-19)を読誦する。「三幡」部分は唱える。『大歌書一本上冊』(文献Z-19)の本文は、段ごとの冒頭は問答形式で読誦する。『大歌書一本上冊』(文献Z-19、該当写真番号khi20111117IMG_0894)部分を例にすると、

唸(意味は何、読みはニャン) 話唸村唸堂到

唸上唸頭何後來

唸堂到
唸上唸頭唸後行
唸小唸聲唸聽後
唸得唸來唸也來
唸聽後
唸得唸來唸也行

と1人が歌うと、もう1人は本文に従い、

人話郎村歌堂到 (人の話では男の村で歌の祭りがあるそうだ)
踏上船頭聽後來 (船の舳先に登り、聞いてから来る)
歌堂到 (歌の祭りがある)
踏上船頭聽後行 (船の舳先に登り、聞いてから行く)
郎小聽聲又聽後 (彼は音を聞いて聞いてから)
聽得娘來郎也來 (聞けば彼女が来れば彼も来る)
又聽後 (聞いたら)
聽得娘來郎也行 (聞けば彼女が来れば彼も来る)

と答える。

1人が七言上下句四句を、一句の一言、三言、五言、二句の一言、三言、五言、三句の一言、三言、五言、四句の一言、三言、五言を唸(ニャン、何の意味)に置き換え歌うと、2人目が唸部分に回答を入れ歌う。この時文面通りではなく、一句七言、二句七言、一句七言の末三言を繰り返し、二句七言、三句七言、四句七言、三句七言の末三言を繰り返し、四句七言を歌う。それが終わると祭司2人で左右の頁を分担し読誦が進められる。⁽⁶⁾

「洪水沙曲」を初めとする「七韻曲」がはされまれるがこの時は読誦のメロディーが変わる。「曲」に入る前主厨官が線香を献じ、祭司が沙板を鳴らし、問答があり「曲」ごとに調子を合わせるために、「曲」の調子を表わすとされる「拉里連郎里拉利 連郎拉里利拉里 里呀連郎利 連郎拉里利拉里」(「洪水沙曲」用)を歌い「曲」の読誦が始められる。この時の問答は、

問 青天白日	答 白日青天
問 各歌乱唱(それぞれ歌う)	答 乱唱乱排(めちゃくちゃに歌う)
問 乱排乱唱	答 唱歌唱歌(歌と曲を歌う)
問 唱歌唱歌	答 唱到第一洪水沙(第一洪水沙に歌い至る)
問 伸過第一洪水沙(第一洪水沙に至る)	答 唱得句句也是歌(歌っている一句一句は歌)
問 唱得句句也是曲(歌っている一句一句は曲)	答 唱得有頭有尾之歌(始めと終わりのある歌を歌う)

問 不得唱得無頭無尾之歌(始めと終わりのない歌は歌わない) ………

の掛け合いで行なわれる。「曲」が終わると『大歌書一本上冊』(文献Z-19)の本文部分に戻るが、初めの数頁は問答形式で読誦される。

28、(20日3時頃～)祭司が歌娘に鈴を与え『四廟歌書』(文献B-2)「四断完了又接鈴歌語」を読誦し、次に歌娘が祭司に鈴をわたすと、祭司は『大歌書一本上冊』(文献Z-19)「接鈴用」を読誦し、歌娘の歌を評価する。

29、(4時40分頃)祭司は『大歌書一本下冊』(文献Z-20)を取り出すために問答を行なう。歌書を管理している劉三妹娘の書棚から、下冊を取り出して歌の場に戻ってくる様子を問答形式で表現する。

問 何樂嶺 何樂生子何樂源何樂山(どこの山に、何の木の实、どこの源/どこの山、)
人話石榴何生子何樂生子出何源出何山(人は石榴が何の实をつけ、どこの源/どこの山に生えるか?)

答 石榴嶺 石榴生子石榴源石榴山(石榴の山に、石榴の实、石榴の源/石榴の山、)
人話石榴要生子 石榴生子出深源(人は石榴が実をつけ、石榴の实は源にあるという)
要生子 石榴生子出深山(石榴は実をつけ、実はあるという)

源山部分を旗／埂、排／崩、河／洞、灘／垣、沟／田、京／州、郷／村、街／院、楼／門、庁／房、京／棹、廂／書の順に置き換え、さらに廂書から源山へとさかのぼって置き換え、歌書を歌の場へ導くための道筋が示されており、この問答を行なうことで、下冊を歌の場に取り出すとされる。

30、(5時15分頃～)『大歌書一本下冊』(文献Z-20)の初めは問答形式で読誦。「又何物段」部分は全部問答で構成されている。

冒頭部分を例にすると経文の文面の七言上下四句は、

何物変 変成何様得娘連 (何に変われば、何に変われば彼女に繋がるのでしょうか)
得郎變成銀梳子 上娘頭上作横眠 (彼が銀の櫛に変われば彼女の頭の上で横になって眠ることができる)

とあるが、実際には、

問 何物変 変成何様得娘連 (何に変われば、何に変われば彼女に繋がるのでしょうか)
得郎變成何様子 上娘頭上作横眠 (彼が何に変われば彼女の頭の上で横になって眠ることができるだろうか)

何様子上娘頭上作横眠 (どうすれば彼女の頭の上で横になって眠ることができるだろうか)

答 容易変 變成一様得娘愛 (変われる 一度変われば彼女のハートをつかめる)
變成二様得娘連 (二度変われば彼女に繋がることできる)
容易變 變成二様得娘連 (変われる 二度変われば彼女に繋がることできる)
得郎變成銀梳子 (彼が銀の櫛に変われば)

上娘頭上作横眠 (彼女の頭の上で横になって眠ることできる)

銀梳子 上娘頭上作横眠 (銀の櫛なら彼女の頭の上で横になって眠ることできる)

と歌唱される。女性の頭から足元まで身に着けるものに男性が変身する内容が続くが、本文の七言上下句四句のうち三句目と四句目が何に変身するか、変身するとどのようなかという答えになっており、それを引き出すために、一定の調子が繰り返される。「何に変わればよいのかな、何に変われば〇〇になるかな?」「简简单単何に変わればよいかって、〇〇に変われば〇〇になる」のように謎掛け形式で次々と反復展開される。

31、(10時50分頃) 祭司は神々への供物(内臓・紙銭・鈴・碗・箸)を船に積み込む。

32、(10時55分頃) 戸外で三姓単郎3人三姓青衣女人3人は対面して並ぶ。歌娘と男性歌手は「遊愿」の読誦を続ける。

33、(11時42分頃)「打令放船」では、主厨官が心臓の入った碗を運び、酒と箸を並べる。祭司は杯を倒し酒をこぼす。『大歌書一本下冊』(文献Z-20)「解開船横放船去」の内容の読誦を続ける。

34、(11時52分頃) 退席は祭司により文献Z-15が読誦されるが問答形式で、片付けることを神々に知らせる。

酒是何人酒 棹是何人棹 何人声々還良愿 酒是大王酒 棹是大王棹 家主声々還良愿 何人棹上得分明 大王悼得分明

(酒は誰の酒 船の櫂は誰の櫂 誰が還家愿を行なうのか 酒は大王の酒 櫂は大王の櫂 施主が還家愿を行なう 誰が船のこぎ方を分かっているのか 大王が船のこぎ方を分かっている)

片付けることを盤王に知らせる内容である。

35、(14時10分頃～)「送王」で祭司はまず神々を招聘し、献酒を行なう。

36、(14時35分頃～) 祭司は神々に約束した紙銭を献上し、足りたかどうかト具で占う。「做証」してくれたありとあらゆる神々や師父、関係する神霊に対して銭を献じる。「拆愿」は、すべての願ほどきを完了させるために願掛けの証書を消却させる。

37、(15時5分頃) 祭司は神々に繁栄と五穀豊穰、家畜の増殖、金銀財宝を願う。瘟神、災殃、傷神、耗、七精八怪等の害をなすものから守ってくれるように願う。

38、(15時8分頃) 祭司は献酒を行なう。

39、(15時12分頃) すべて紙銭が燃やされ神々に届けられる。祭司は納めたかト具で占う。

40、(15時24分頃) 祭司は米を撒き、神々を送り去る。

41、(15時25分頃) 祭司は戸外に香炉と水杯を持ちだし、伏せて中身を出し、線香で符を書き「送王」を終了する。

以上『大歌書』いわゆる『盤王大歌』が歌唱される儀礼の程序を詳しい復元を試みた。さらに今後は『盤王大歌』の漢字経文がどのような音訓と節が付され歌唱されるかを明らかにしていきたい。

注

- (1) 祭司に施主が儀礼の依頼をする際わたす包み。中に塩が入れられており、表面に盤王と記されている。
- (2) 盤王愿儀礼において招聘される神々は、文献(C-3)にあるように、いくつかのグループに分けることができる[松本 2011]。連州唐王グループは、龍王、[亜+田]教四王、起刀五王、托天六王、置山七王、盖天八王、南楼九王、楼上相公、地下羅任秀才、門前進壇十丈、竜古聖人、竜依竜十七官、貴依唐十八官、長衫長聖九娘、長衫長聖十娘、里頭便請唐十五娘、花窮便請唐衫十娘、里頭出門托帶小王、小王出門托化前占夫人、後占夫母、連山盖山童子、青衣女人で、連州大廟に属するとされる。行平十二遊師グループは、大堂高○六位師主、大堂高○六位師傳、藤家師、家師、落家減家師、色家師、奉家師、泰家師、李師、俞家師、樓泥三唱、樓四唱、十二歩刀梯、十二面蔭床含梨、潑沙漠病使者、退病使者、師公、師男、師孫、師公、師色で、行平大廟に属するとされる。(○は不明。以降同じ) 福(伏)靈五[浦+女]グループは、伏靈聖公母、左○母手、過雲右手過雲順手、過雲太白聖人、置鼓一郎、置鼓二郎、横吹竹黃三郎、拍板四郎、長沙木鼓五郎、○頭六郎、○尾七郎、王上樓桃花妹妹、下樓流鑼仙娘、前門強琶、後門立椅、後生年少唱歌、有段劉三妹妹で、伏靈大廟に属するとされる。福江盤王グループは、盤古郎老聖人、金童、玉女、黃趙二位、○禾花姊妹、五谷仙娘、李家李請書丁、劉一劉二仙童、把瓶獻瓶郎官、許愿童子、把愿判官で、福江大廟に属するとされる。厨司五旗兵馬グループは、東門五旗、南門五旗、西門五旗、北門五旗、中門五旗、船過海踏馬、過街、寄書、寄話、寄文、寄語五旗、真小筆、磨墨二郎、把瓶童子、獻郎官五旗で、厨司大廟に属するとされる。陽州衆位宗祖家先は、家先単に記載されている直接の先祖を示す。道教の神々ではなくヤオ族の祖先神の名が連ねられている。
- (3) 流楽の最初にヤオ族のアイデンティティの根幹をなす、移住と海を渡り遭難した際の盤王への救済の願掛けと無事に難を乗り越えた後の盤王への願ほどの祭祀の実行、その後の移動と祭祀の継承が明らかにされる「点男点女過山根」が読誦される。2014年3月実施の予備調査において経文の確定作業を行なったので「点男点女過山根」の経文全文の翻刻と現代文への翻訳を記す。

「点男点女過山根」(文献Z-29)

在落缸頭跪落船尾 速也速 立齊連州唐王聖帝 下廟行平十二遊師 福靈五[浦十女]聖帝 福江盤王聖帝 厨司五旗兵馬 陽州宗祖家先 立齊大神父母 回頭轉面 寬寬坐落聖席頭上 各人側言听語 側言听言 且听一名大廟靈師 牒出人子孫 △音還愿家主 当初以来出處來遊 來由出處 当初盤古開天立地 高王置天 平王置地 又置日頭第一宝 又置七星第二名 又置州庭無万濶 又置江何無万湾 因為前歲以来 景定元年四月初八 良日洪水淹上 上淹三十三天 下淹十八地獄 天下無人 重有伏羲姐妹 陽手遮天下 扶手遮州三十三天 下遮十八閻羅大王 天下真言全無凡人 仙人手拿 一丈二尺鉄棍 行尽天下 全無○人接代 伏羲姐妹 耐何不得為婚 隔岸梳頭 頭系相結 隔岸種竹 竹尾相連 隔岸燒香 香烟相合 為計姐妹不得為婚 正來行鄉出路 路逢烏龜開口 要妹為婚 回轉路頭 姐妹打破烏龜 烏龜轉回烏龜團圓 天下無人為婚 楊梅樹下為婚以了 七朝七夜花孕上身 生下血盆 無名無姓 九州養女把刀分俵 分下一百二十姓之人 安在九州六国 分下十二姓人 安在南京十保山頭 年深月久居住 地頭也敗 因為寅卯二年 天地流旱 便有一個老姐 江迎吊魚 口吃青烟 失落紅火 燒了百姓黃杉樹木 安身不住無人遮過 人子孫正來處備 十二個大缸 人衆漂遊過海 遊到半夜 三更夜靜 戌亥二時 會着狂風 打落波浪里頭 遊缸不得順風 不移大哥拿妹手巾 帖在缸頭 跪落缸尾 許上流羅歌堂 酬神酬意保書 全靠大壇衆聖 三廟聖王 有道有法 大神父母担保人丁 順風也去 缸頭也去 缸尾也行 天風順意 吹上南海上岸交過了 丁卯歲中 八月十三良日 還恩答謝 勾過歌堂良愿保書 念過大神父母 以前過後種竹有根 種竹有笋之人 各自分机 居住分上雷古山 伏子連州 住安身落處 年深月久地土又慌 各自分執 遊到湖南道州黃土塘 住居月久 水深地土 又慌又来流鄉出路 遊到寧遠西洞北路 黃塘宝寨山 立宅居住 年深日久 地頭也敗 地土又慌 又来遊到桂陽州 滴水水立宅居住 年深月久 地土又慌 又来遊到藍山居宅 三十年踏上 四十年踏下 地頭又敗 地土又慌 正來遊到寧遠九疑 地面安身落處 世今以来△音子孫 行到△地名 打開前歲來虎 后山地脉 立起屋

宅一座 挑居住 立起大壇衆聖 敬奉三廟聖王 接代五路香烟 前歳以来 過△月△日△ 許上一座歌堂 良願保書 許有三姓単郎 三姓青衣女人 世今以来 請師到壇 奉還歌堂良願保書 一名大廟靈師 揺鈴請聖 齊臨大听意者 以過請出 三姓単郎 三姓青衣女人 男人站前女人站後 依古代礼 前者以来有疏有犯 入席三拝 出席三拝 回席一双 世今以来 △有△音子孫法△ 有心○○有心還願 無疏無犯 入席二拝 出席二拝 回席一双 唸大神父母 台頭接拝台頭領拝 寛座聖席 請出男人出唱歌詞 拝神聖歌詞 引歌出歌詞 (△は状況に合わせた語を入れる)

(訳)

船先にあり船尾にひざまずきどんどん進む。

連州唐王聖帝、行平十二遊師、福〔伏〕靈五〔浦+女〕聖帝、福江盤王聖帝、厨司五旗兵馬、陽州宗祖家先集まってください。大神父母たち集まってください。

きびすを返し、広々とした聖席にお着きください。それぞれ傍らの言を聞き、耳を傾け、私の言を聞いてください。1人の大廟の靈師は、奏上します。瑤人の子孫の某音の者が還家愿を行ないます。始まり由来を述べれば、盤古が天地を創造し、高王が天を造り、平王が地を造り、太陽と月を造り、太陽は第一の宝、また七星を造り、第二の宝とし、また果てしなく広い地方(田)を造りくねくね曲がる川を造る。そのようだったが、景定元年4月8日のよい日に洪水が起こり、どんどん水があふれ、上は三十三天、下は十八地下まで水があふれ、天下に誰もいなくなり、ただ伏羲と姉妹のみとなった。天下を手をかざしてみると、手をかざして上は三十三天、下は十八閻羅大王地下を見るが、まったく誰もおらず、仙人が1丈2尺の鉄の棒を手にし、行くも天下にまったく子孫がいなくなり、伏羲と姉妹のみとなり夫婦となるしか方法がなくなった。兩岸で髪をすけば髪が絡み合い、兩岸の竹は互いに繋がりあい、兩岸で焼香をすれば煙がまとわりあう。それでも姉妹は夫婦となるのを拒んだ。まさに進んで行くと、亀に出会う、亀は夫婦となるように勧めるが、姉妹はきびすを返して亀を打ち割ってしまう。それでも亀は円満に夫婦とさせる。

天下に人なく夫婦となる。楊梅の木の下夫婦となった。七日七晩身ごもって血の塊を産むが人ではなく、九州の聖人である養女が刀で塊を120の姓の人に分け、九州六国に住ませる。12姓の瑤人も分けられ、南京十保山に落ちつく。久しく年を経て住むが、地が壊れた。

寅卯二年に天地は日照りとなり、1人の老女が川べりで魚釣りをし、たばこを吸った。その時、たばこの火を落としてしまい、人々の黄杉の木を焼いてしまった。もう住むことができず、どうにもならず瑤人の子孫は12姓それぞれ12艘の船を用意し、大海を渡った。

途中三更の頃、夜も静けき戌亥の頃、風が吹き出し、波が高くなり、船は波に翻弄されぐるぐると回った。兄は妹の刺繍のハンカチを手にし、船頭に船尾にひざまずき大願「流羅歌堂酬神酬意保書」を掛けた。すべての大壇のもろもろの神々、三廟聖王、有道有法の大神父母の神々に人々の命を救い順風で進めるように願掛けをした。すると船頭も船尾も安定し、順風となり、無事南海の岸に上陸できた。丁卯の年、8月13の良日に願ほどきを行ない「歌堂良愿保書」の祭祀を行ない大神父母の神々に念誦した。

その後代々続き、竹の根と竹の子のように継承された。それぞれ分かれ雷古山や伏子連州に定住した。久しく年を経て土地が荒れ、それぞれ移り住み、湖南道州や黄土塘に至り、さらに久しく年を経て、長い時間を経て土地が荒れ、また移り住み寧遠や西洞北路や黄塘宝塞山に至り定住した。さらに久しく年を経て、さらに土地が荒れ、移り住み桂陽州や滴水山に至り定住した。さらに久しく年を経て土地が荒れ、また移り住み藍山に至り定住した。あっという間に30年40年と年が経ち土地が荒れてさらに寧遠や九疑に移り定住した。現在某音の某子孫は某所に至り、前に虎後ろに山の地脈に住まいし、泥で家を建て衆神祖先を祀る祭壇を設けた。三廟聖王を敬い祀り、掛灯を行ない代々継承し、以前某月某日に願掛けを行なう「歌堂良愿保書」を行ない、今願ほどきを行ない、三姓単郎と三姓青衣女人によって師に依頼し、祭壇を設け「還歌堂良愿保書」を行なう。1人の大廟靈師は鈴を振り、神々を招き「大聴意者書」を述べる。三姓単郎と三姓青衣女人は男が女の前に立ち、古代の礼によって、もともとそうであったように心に不都合なことがあり、神に対して犯をおかした場合、入席三拝し、出席三拝し、回席二拝し、今某音の子孫が願ほどきを行なう。心に不都合がなく犯をおかしていなければ入席二拝出席二拝回席二拝し大神父母神に念誦する。祭壇で我らの礼拝に接し壇上で礼拝を受け、ゆっくりと聖席に座し、男人が「拝神聖」を歌い「引歌出歌」を歌うのを受けてください。

である。

現在でも儀礼盤王愿の実践において、最初にヤオ族が盤王愿儀礼を行なうことになった原点に立ち返り、

願掛けと願ほどの祭祀の原義を確認することで、過去から現在に至るまで綿々と引き継がれる盤王との祭祀契約とその履行を再現する儀礼を行なうことを表明している重要な歌詞といえる〔廣田 2013c〕。

- (4) 文献番号は神奈川大学プロジェクト研究所やオ族文化研究所の閲覧収集資料番号を示す。文献の多くは題名が記されていないからである。
- (5) 『盤王大歌』には創世神話等の神話叙事、民族の歴史叙事、祖先にまつわる種々な伝承等が含まれている。広西・湖南の過山瑤が行なう、還盤王愿で歌われる『盤王大歌』は七言を主とし36段または32段、または24段または18段から構成され、さらに七任曲と称される曲調を異にする7つの歌を加えて成立するとされる。

湖南省藍山県滙源郷湘藍村馮家で実施された還家愿儀礼で実施された時使用された『盤王大歌』（文献B-3）は、起声唱・齊入席・隔席唱・論娘唱・日頭出・日正中・日落江・日落西・日落鳥・日頭過江・夜深深・夜黄昏・天上星・月亮亮および第一紅紗曲、次に天大旱・見怪歌・天暗烏・北邊暗・洪水発・雷落地・葫蘆・伏羲・洪水盡・為婚了および第二山逢閑曲、次に造得地・置天地・唱王打水・深山竹木・唐王出世・信王出世・玉女梳頭・白涼扇・坦傘・盤王出世・石崇・富貴・琵琶頭・紗板・魯班および第三滿段曲、次に楼上伏門・大婆女・説婚早・劉山・秀才・師人・十二遊師・鳥雲生・五婆見・英台・山伯・生時・大州大・大州・老鼠・大缸・石榴生および第四葉荷葉で成立している。〔廣田 2011a: 369、2013f〕

湖南省江華瑤族自治県で収集された乾隆年間の手抄本を整理した『盤王大歌』（中国少数民族古籍瑤族古籍之一湖南少数民族古籍弁公室主編 岳麓書社 1987年）は内容が充実していると考えられるが、起声唱・日出早・日正中・日斜斜・種竹木・唐王出世・盤王出世・盤王献計・流羅子・琵琶頭・石崇富貴・歌一段・魯班造寺・梅花曲・雷落地・郎老了・彭祖歌・夜深深・大小星・月亮亮・黄条沙・天大旱・天地動・天地暗・北邊暗・見大怪・相逢賢曲・造天地・万段曲・送神去・亞六曲・荷葉杯曲・桃源洞歌・四字歌・放猎狗・夜黄昏・何物歌・盤州歌・南花子曲・閩山歌・梁山伯・鄧古歌・飛江南曲から構成されている。

広西チワン族自治区の賀県で収集された『盤王大歌』（中国少数民族音楽楽籍叢書之一盤承乾等收集整理 天津古籍出版社 1993年）は、起声唱・輪娘唱・日出早・日正中・日斜斜・日落江・黄昏歌・夜深深・大星上・月亮亮・黄条曲・天大旱・見大怪・北邊暗・雷落地・葫蘆曉・洪水尽・為婚了・三逢延曲・造天地・種竹木・三更深曲・盤王出世・盤王起計・富貴竜・荷葉杯曲・梁山伯歌・南花曲・桃源洞・閩山学堂歌・造寺歌・飛江南曲・何物歌・彭祖歌・梅花曲・亞六曲で構成されている。

1960年代に広西チワン族自治区大瑤山瑤族自治県三角公社で収集された『盤王歌』（広西民族学院中文系民族民間文学教研究翻印 1980年）は、起声唱・初入席・隔席唱・論娘唱・日出早・日正中・日斜斜・日落紅・日落西・夜黄昏・夜深深・天上星・月亮亮・天大旱・見大怪・天地動・天暗烏・北邊暗・雷落地・伏羲姊妹・葫蘆・洪水発・洪水天・造天地・鳥雲生・大盤計・小盤計・桃源・閩山学堂・魯班造寺・何物・鄧古・彭祖・郎老了・放猎狗・歌船・第一黄条沙・第二三峯寒・第三曉段曲・第四荷葉盃・第五南花子・第六飛江南・第七梅花で構成されている。

張勁松によれば本事例と同県藍山県桐村の『盤王大歌』は、第1章は日出早・日正中・日斜斜・日落西・日落崗・夜黄昏・夜深深・天上星・大星上・月亮亮のほか、第一曲黄条沙を加えて構成され、第2章は、天大旱・見大怪・天地動・天柱倒・天暗烏・北邊暗・雷落地・洪水発・洪水尽・怕不合・為婚了のほか、第二曲三逢閑を加えて構成され、第3章は、造得天・造得地・造得火・置山源・置青山・相説報・唐王出世・盤王起計・邀娘壳・白涼扇・富貴竜・琵琶竜・喽羅真的ほか、第三曲万段曲を加えて構成され、第4章は、賜嫁早・劉大・鳥雲生・梁山伯・大州大のほか、第四曲荷葉杯を加えて構成され、第5章は、桃源峒・閩山鳥・閩山青・入連洞・会造寺天字大・鄧鼓歌のほか、第五曲南花子を加えて構成され、第6章は、何物変・得郎变・何物輪・何物爛・何物死・彭祖生・彭祖死・郎老了のほか、第六曲飛江南を加えて構成され、第7章は、木倒地・船成了・船到水・送路去・帰去也・飲酒了・不唱了のほか、第七曲梅花相送を加えて構成されとしている。（張勁松『藍山県瑤族伝統文化田野調査』岳麓書社 2002年 pp.63-65）

資興市の祭司所有の乾隆四十二年の銘がある手抄本の『大堂歌書』には、起聖唱・論娘唱・○入席・隔席唱・分○唱・平平唱・日頭出・月正中・月斜斜・月落西・月落江・日頭過江・夜深蘭・夜深深・夜黄昏・黄昏・月亮・第一紅系紗曲・一片鳥・二十八後・第二園歌曲・天太旱・見怪歌・見怪路・見大怪・天柱倒・天暗烏・北邊暗・洪水発・雷落地・葫蘆歌・大州出・葫蘆熟・洪水発・洪水浸・為婚了・第二(ママ)園三逢閑曲・造得地・造得天・置天地・仰歌曲・深山竹木・唐王出世・信王出世・盤王出世・白涼扇・坦傘・盤王歌曲・盤王起計・石崇富貴・琵琶・魯班・喽囉・第三園滿段曲・出嫁早・秀才・師人・十二遊師・鳥雲上・大州・英台・梁山・大缸・第四段荷葉歌曲・桃源・閩山・起造歌曲・造寺魯班・鄧古歌・遭小何物歌・第五段南花曲・唱何物歌・唱古人歌・郎老了・唱彭祖歌・唱第六段飛江南曲・唱送聖歌・缸成了・缸到水・送神去・第七段鴨六曲が並べられている。

その他の地域の『盤王大歌』は、湖南省江華瑶族自治県のテキストとして、鄭徳宏選編『瑶族経書』岳麓書社 2000年、広東省の乳源瑶族自治県のテキストとして盤才万 房先清収集・李黙編注『乳源瑶族古籍匯編』上・下 広東人民出版社 1997年、広西チワン族の例が農学冠・李肇隆編著『桂北瑶歌的文化阐释』民俗出版社出版発行 2008年にも収められている。

さらに中国以外の諸機関に所蔵されている『盤王大歌』については、バイエルン州立図書館はヤオ族写本を2776件所有し、うち867件が目録化されている。(Höllmann, T. O. hrsg. 2004 Handschriften der Yao Teil 1 Bestände der Bayerischer Staatsbibliothek München Cod.Sin.147 bis Cod.Sin.1045, Stuttgart : Franz Steiner Verlag) そのうち盤王崇拜にかかわる盤王書・盤王歌をはじめとし約200件を閲覧した。イギリスオックスフォードボードレアン図書館所蔵ヤオ族写本テキスト145件を閲覧したが、その中にも盤王歌を確認できた。南山大学人類学博物館所蔵白鳥文書のうち9箱に収められた約160件の北タイのヤオ族写本を閲覧したが盤王歌を複数確認できた。[廣田 2011c、2013d、f]

『盤王大歌』の構成および内容について詳しく分析が試みられている書籍としては黄海・邢淑芳『盤王大歌—瑶族图腾信仰与祭祀经典研究』貴州民族宗教文化研究叢書 貴州人民出版社 2006年、鄭長天『瑶族坐歌堂的結構与功能—湖南盤瑶剛介活動研究』瑶学叢書 民族出版社 2009年がある。

- (6) 2014年3月に実施した予備調査では『大歌書』の中でも盤王に直接かかわる記述部分の経文の確定作業も行った。これは經典によって使用されている漢字が異なるため、必要な作業であり、今後引き続き『盤王大歌』の経文全文について確定を行なう必要がある。

『大歌書上冊』「盤王出世」(文献Z-19)

出世盤王先出世 出世盤王在福江／西天 盤王頭帶平天帽 帽帶肖肖朝上天 盤王出世先出世 盤王出世在福江／西天 盤王出世福江廟／西天 兩個金童在兩行／邊 盤王出世愛相刻 釋伽相刻在江河／江邊 盤王生得三年半 釋伽背上出石螺／紅蓮 高臺望見齋眉鏡 龍見花粉在江村 盤王生得一對女 一年四季出行遊 玉女梳頭不亂髮 聖女梳頭髮亂飛／系 玉女梳頭是佛樣 隨着盤王雙下歸／時
要娘買笠娘不買 要娘買傘說無錢／油 得娘十已成郎我 苧麻庶頭也過年／秋

(訳)

現われる。盤王がもうこの世に現われた。

この世に現われる盤王は福江に現われた。西天に現われた。

盤王は頭に平天帽をかぶり、平天帽は堂々として上天を向いていた。

盤王は現われる。もうこの世に現われた。

盤王は福江に現われた。西天に現われた。

盤王は福江に現われた。西天に現われた。

2人の金童玉女が脇に控える。

盤王は工具を作るのにたけていた。

かせを創造したのは河辺だった。

盤王は1年24カ月、3年半、7年放っておいた。

かせの上には、コケが生え数珠のようなものが出てきた。

高台から鏡のように見通せる目で見渡す。

龍見花粉在江村 (不明)

盤王は1年に2人の女兒を得る。

一年四季巡遊する。

玉女(盤王の女兒)は髪をすくが髪は乱れない。

聖女が髪をすくと髪はバサバサに乱れる。

玉女は髪をすき仏様のようにまとめる。

玉女は盤王に従い行ったり来たりする。

玉女が母にかさを買おうというを買わないという。

玉女が母にかさを買おうという和金がないという。

年がいけば結婚し夫が買うという。

苧麻をかぶっても年は越せる、秋は越せると母はいう。

『大歌書上冊』「盤王起計」(文献Z-19)

起計盤王先起計 盤王起計立春名 黃龍又定五雷熟 專望五雷轉一聲 起計盤王先起計 盤王起計閉
犁頭／ 鼠王過海禾種 黃龍含水吩禾苑／花 起計盤王先起計 盤王起計閉犁梗／ 閉得犁也会使
屋底大塘谷拔生／芽 起計盤王先起計 盤王起計立春名／哀 立得春名都足了／哀 屋背秧苗段段青
／齊 起計盤王先起計 盤王起計種苧麻／系 種得苧麻兒孫續 兒孫世代綉羅花／衣 起計盤王先起
計 初發苧麻叶大球／油花 苧麻細不成苧 蕉麻細便成油／羅 起計盤王先起計 盤王起計閉高枷／
機 閉得高枷織細布／機 布面又凋李柳花／系 着苧盤王先着苧 着羅唐王先着蕉／羅 盤王着苧世
也好 唐王着蕉更請條／羅婁羅 盤古留得有七格 羅衣手中無本錢

(訳)

盤王はまず頭がよい。盤王は頭がよく立春と分かる。
黄竜が五雷をもたせば、立春と分かる。
五雷の音を聞き立春と分かる。
盤王はまず頭がよい。
盤王は犁と馬鋤を創造した。
鼠王は海を渡り穀物の種を盗んできた。
黄竜は水を含み吹きかけ雨を降らす。
盤王はまず頭がよい。
盤王は犁と馬鋤を創造する。
創造しても使わないうちに、家に置いた苗が発芽してきた。
盤王はまず頭がよい。
盤王は立春と分かる。立春に近いと分かる。
立春にほどなくしてすべて満足した。
家の後ろの植物の苗は青々とした。
盤王はまず頭がよい。
盤王は頭がよく、苧麻を植えた。
苧麻を植え、盤王の子孫は織物をした。
子孫は代々衣服に刺繍を施した。
盤王は頭がよい。苧麻の根から、花から油を取ることを発見した。
苧麻の種は地下の根は食べられない。
蕉麻の種は油がたくさん取れる。
盤王はまず頭がよい。
盤王は高機を発明した。
高機を発明し、織物を行なった。
布には花々を織り上げた。
盤王は苧麻を、まず苧麻を着た。
唐王は染色を行ない蕉麻を着た。
盤王は苧麻を着てみたがよくなかった。
唐王は蕉麻を着て、染色をして盤王よりも美しいよいものを着た。
盤王は7枚の衣を残した。
衣は残したが金銭は残さなかった。

参考文献

神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科

- 2011 神奈川大学歴民調査報告第12集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』Ⅰ 神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科
- 2012 神奈川大学歴民調査報告第14集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』Ⅱ 神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科
- 2014 神奈川大学歴民調査報告第17集『南山大学人類学博物館所蔵上智大学西北タイ歴史文化調査団資料文献目録』Ⅱ 神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科

竹村卓二

1981 『ヤオ族の歴史と文化』 弘文堂

張勁松

2002 『藍山県瑶族伝統文化田野調査』 岳麓書社

廣田律子

2009 「湖南省藍山県ヤオ族の還家愿儀礼の演劇性」『中国近世文芸論—農村祭祀から都市芸能へ—』 東方書店 pp.99-128

2011a 『中国民間祭祀芸能の研究』 風響社

2011b 「『盤王大歌』—旅する祖先—」『万葉古代学研究所年報』第9号 万葉古代学研究所 pp.167-216

2011c 「資料紹介 文献に見る盤王伝承」『瑶族文化研究所通説』第3号 ヤオ族文化研究所 pp.61-74

2011d 「“囉哩哩 (ルオリレン)” の詞章に関する研究」『神奈川大学国際常民文化研究機構年報』2 神奈川大学国際常民文化研究機構 pp.235-247

2013a 「祭祀儀礼に見る旅—中国湖南省藍山県ヤオ族の通過儀礼を事例として—」『旅のはじまりと文化の生成』 大学教育出版 pp.210-244

2013b 「構成要素から見るヤオ族の儀礼知識—湖南省藍山県過山系ヤオ族の度戒儀礼・還家愿儀礼を事例として—」『國學院中國學會報』第58輯 國學院大學中國學會 pp.1-25

2013c 「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第121号 日本道教学会 2013年 pp.1-23

2013d 「祭祀儀礼と盤王伝承—儀礼の実施とテキスト—」『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所 pp.88-106

2013e 「ヤオ族春節調査」『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所 pp.133-136

2013f 「願掛け願ほどきの民俗—中国福建省漢族の元宵会と湖南省ヤオ族の還家愿儀礼を事例として—」『東アジア比較文化研究』第12号 東アジア比較文化国際会議日本支部 pp.56-68

2013g 「ボードリアン図書館蔵ヤオ族テキスト盤王関連校訂用資料」『麒麟』第22号 神奈川大学経営学部17世紀文学研究会 pp.58-68

2014 「儀礼知識の伝承に関する研究—身体コミュニケーションによる伝承とテキストによる伝承から—」『国際常民文化研究叢書7—アジア祭祀芸能の比較研究—』 神奈川大学国際常民文化研究機構 pp.199-230

松本浩一

2011 「度戒儀礼に見える神々：呉越地方・台湾の民間宗教者の儀礼と比較して」『瑶族文化研究所通説』第3号 ヤオ族文化研究所 pp.24-34

丸山宏

2010 「湖南省藍山県ヤオ族伝統文化の諸相—馮榮軍氏からの聞き取り内容—」『瑶族文化研究所通説』第2号 ヤオ族文化研究所 pp.21-22

2011 「中国湖南省藍山県ヤオ族の度戒儀礼文書に関する若干の考察—男人用平度陰陽拋を中心に—」『知のユーラシア』明治書院 pp.400-427

ヤオ族文化研究所

2009 『瑶族文化研究所通説』第1号 ヤオ族文化研究所

2010a 『瑶族文化研究所通説』第2号 ヤオ族文化研究所

2010b 『ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム予稿集』 ヤオ族文化研究所

2011 『瑶族文化研究所通説』第3号 ヤオ族文化研究所

2012 『第2届国際瑶族伝統文化研討会—資源与創创意—會議論集』 ヤオ族文化研究所

2013 『瑶族文化研究所通説』第4号 ヤオ族文化研究所

吉野晃

2010 「タイ北部におけるユーミエン (ヤオ) の儀礼体系と文化復興運動」『東アジアにおける宗教文化の再構築』 風響社

2011 「〈掛三台燈〉の構造と変差：タイ、ラオス、中国湖南省藍山県のユーミエンにおける〈掛燈〉の比較研究」『瑶族文化研究所通説』第3号 ヤオ族文化研究所 pp.35-40

2008 塚田誠之編「槃瓠神話の創造？—タイ北部のユーミエン (ヤオ) におけるエスニック・シンボルの生成—」『民族表象のポリティクス—中国南部における人類学・歴史学的研究—』 風響社 pp.299-325

2001 塚田誠之編「中国からタイへ—焼畑耕作民ミエン・ヤオ族の移住—」『流動する民族—中国南部の移住とエスニシティ—』 平凡社 pp.333-353

李祥紅等

2010 『湖南瑶族奏鐃田野調査』 岳麓書社 p.77

(ひろた りつこ 神奈川大学経営学部教授)